

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY PURE 和合校			
○保護者評価実施期間	令和6年11月20日		令和6年12月7日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日		令和6年11月27日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月15日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域に沿った多種多様な活動プログラム。	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムの固定化を防ぐため、5領域への分類化と立案を行っている。 公共施設の活用、イベントへの参加も積極的に取り入れ、様々な体験を提供している。 事前に職員がプログラムを体験してルールの見直し・修正を行い、より質の良いプログラムを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き5領域への分類化に取り組み、偏りのない支援を行なっていく。 月ごとにカリキュラムを設定し、プログラムを発展させつながら作ることで、子どもの特性をより明確化できるよう努める。 他事業所や同施設内の児童発達支援事業所との交流をより深めていきたい。
2	心理担当職員による専門的支援の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 集中して取り組むことができるよう、個室を設けて心理担当職員と1対1での支援を意識している。 個別支援計画書を参考に、保護者の要望と本人のやりたいこととのバランスを考えながら専門知識がある職員がプログラムを立案し、目標達成を目指している。 	心理担当職員と連携し、小集団での専門的支援も取り組めるようなプログラムを立案していく。
3	切れ目のない支援。	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援事業所が併設されているため、放デイを利用する際の要望や利用者の情報共有等を密に行うことができる。 合同イベントを開催し、利用者同士の交流や保護者とのつながりを持つことで、今後も安心して利用していただけるようにしている。 	引き続き児童発達支援事業所との連携を続けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や地域との関わり。	<ul style="list-style-type: none"> イベント日時と提供時間が噛み合わず、地域施設や他事業所との交流の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントを立案し、他事業所の児童を招待することで交流機会を設けていきたい。 地域の特性や近隣施設のイベントにより目を向けていく。
2	家族支援や保護者との関わり。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型のイベントは取り組んでいるが、日時が限定されているため参加できる保護者が限られている。参加が難しい保護者への配慮も足りなかった。 保護者会等の開催もできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や保護者同士の交流の機会を設け、施設の方針や利用者への支援内容を改めて説明していく。 保護者の意向を取り入れながら、開催日を何度かに分けたり、アーカイブを配信する等の配慮を行う。
3	他機関外部との関わりや研修への参加。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が固定化されており、研修の情報自体が全体に周知されていない。 イベント日時と提供時間が噛み合わず、地域の施設や他事業所との交流の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に外部研修へ参加するよう促し、他事業所や外部機関との情報交換をして職員のスキル向上に繋げていきたい。 他機関との関わりを行い、イベントへの招待をすることで交流機会を設けていきたい。